

成願寺

季報
91

平成24年2月18日
(2012年)

目次

「大般若祈禱会ご挨拶」小林貢人……………	1
「区立第十中学校三年生と幼稚園児の交流」佐々木雅子……………	5
「Wajja坐禅研修会感想文」久保田晶子……………	8
平成二十三年秋の坂東観音札所巡拝の報告……………	9
山内短信……………	12

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成二十四年 大般若祈禱会ご挨拶

成願寺住職 小林貢人

昨年の大地震のち春彼岸当初、この寺の被災は石灯籠や墓石が倒れた程度でと報告いたしました。が、まもなく本堂の柱が十五センチほど動いていたり、たから幼稚園別棟の屋根破損など、被害が明らかになりました。



都内で放射性物質が検出された報道を受け、幼稚園の園庭隅と中心点で、地上5cm、五十cm、百二十cmと立体的に計測し、砂場の土を研究所検査に送ったり、関係方面との説明折衝を含め、けっこうな手間暇費用が掛かりました。地震は仕方ないとして放射能汚染は

やりきれない話です。同様の皆さん日本あちこちでばやいておられるでしょう。

四十数年前のことです。茨城県東海村に日本最初の原子力発電所完成直前、その報道取材に同行した私はコンクリートの塊、要塞とも言うべき建屋・設備に感嘆しました。もつとも機械や人間の動きがなく、見て面白い所ではありません。参加一同から「たいへんな資金、運転経費もかさみそうだ。採算とれるか。」「工場はいずれ改築・設備入れ替えをする。その対応・目算はあるのか。」などと質問でまじりましたが、現場責任者の「私たちは日本初めてのものを作っています。次々良い発電所が現れるでしょう。そして日本の経済と文化に役立ちたいのです。」との頼りがいある言葉に送られて辞去。……その原子力開発利用が半世紀たって、面倒極まる事態を起こしております。頼りがいは夢でした。

一ヶ月程前にインド仏跡を訪ねてまいりました。



ナーランダー大学遺蹟



ルンビニ

お釈迦さまのお生まれになったルンビニには煉瓦で囲んだ一角があり産湯に使われた部屋とのこと。ふだん高い須弥壇に奉安し、慈悲心包容心の象徴として仰いでいる釈迦牟尼仏を急に親しく感じました。修行された所、はじめて説法をされた所、最後の説法された御逝去の地クシナガラなど、そしてインド

仏教最盛期の学苑ナーランダー大学遺蹟を訪れました。千三百五十年前留学した三蔵法師玄奘によると一万人の学生が暮らしていたとか、まことに広大、工夫された下水道もあつたようです。しかし後のイスラム王朝時代徹底的に破壊され、煉瓦の荒野が現状。ルンビニを除き他の所も似たりよつたりです。

建物・都市・文化を根絶された例多く、カルタゴありイシカあり、日本で言えば島原の乱、切支丹は殲滅され、原城は裸の泥山になり果てた。

ここ数十年、インドでは文化遺蹟・宗教団体の聖地・公園として復活整備が進められている様子ですが、仏教の伝承断絶あまりにも永く、『学問の足しにはならないからインドに行かぬ』との高名な仏教学者の言葉が頷けます。すでに八百年前、探求心盛んな道元禅師すらインドには興味が湧かなかつたと、あるお師家が推測されています。

ルンビニ、ブダガヤの大樹には目を奪われました。成願寺の本堂前の菩提樹は虫にやられてふらふらしていますが、さすが本場本物の菩提樹、十人が取り囲んでも手が回るかの廻り、山のごとく茂って懷下に人を散策休息させているのです。

仏跡の地は大平野、乾期インドで埃の曇り空、その中を毎日八時間あまりガタガタ道を辿る。信号がまったく無いから、空いていればフルスピード、街に入れば大混雑。割り込み対向車線走行なんでもあり麻痺状態しばしば、車体擦れあつても互いに黙ったまま喧嘩にならない。クラクションだけ大合戦。牛は知らん顔で寝ている。いつの間にか車が動く。荒つぽさとのんびりさに同行の大石君曰く「ここで僕は運転できない」。

初め二日間私たちは恐怖と焦りで、肩が張り首に傷みが走る始末。が三日目、これがインドの車社会なんだ、インド文化インド気質なんだと気づき、心許せる巡行となりました。

きついこの巡拝を十五年間、毎年お勤めのご住職がおられる。十数人を連れてなんです。そのご見識体力には降参。ましてや千六百年前の法顕が、しばらく後の玄奘が黄河中流の地からインド、中央アジアを歩き勉強したこと、まさに神業、仏天加護の奇跡。偉いことをされたもんです。

五日間にわたるちらちら歩きを恥じ入りながら、釈迦出山図―修行を終えて山から下るお姿の掛軸を拡げ、改めて拝している今の私です。

車が停まります。すると目の前に建築現場がある。積み上がった縦横三×八メートルくらいのレンガ壁を白く塗っている。八人から十人くらいの左官屋さんが満員電車ですり革につかまる人たちのように並び、コテを振り回しているんです。その手が同方向同速度で動く。日本ではとても考えられない景色、日本ならせいぜい二人の作業でしょう。

インド日本寺の施工当事者がインド人の仕事ぶり

にいらいらし、胃を悪くした話を思い出しました。何人もの人で行なって能率と採算が悪いようですが、考えようによっては仕事を分け合う、収入も分け合うと思えば良い。のんびりゆつたりのインド人の仕方と日本の忙しげに生活する方のどちらが良いかは分かりません。

日本が第二次大戦で負けて、国も国民もひどい貧乏に落ちた。国家保全と人民衣食住回復はまず経済の安定拡大と叫ばれ、農工商みんなが一生懸命働いたお陰で、現在のように国家人民まあ豊かになった。政府官界経済界あげて生産性向上を謳い、活動を広げた。その一つが原子力発電所。その反面、家庭社会が不安定になった一因とも感じます。

忠犬ハチ公の話。ハチ公は、毎日毎日、駅で主人の帰りを待っていた。このご主人は、毎日定刻に帰ってくる。だからハチ公は改札口に座っていた。これは大正から昭和初期にかけてのお話です。急な雨になると傘を持って定刻に出迎えましたね。昭和三十年ころ、漫画のサザエさん一家は朝も夜もちゃぶ台囲んで食事している。これが日本人の一般的姿でした。

そのサザエさんの頃から日本人の生活文化が都市

中心になり、農村・商店・家内産業など職住一緒の人口減り、都市膨張で通勤距離ながく、残業も当たり前となった。毎朝六時七時に家を出て、帰ってくるのは夜の十、十一時過ぎ。終電車ぎりぎりです。人もざら。これでは、家庭の面倒見れない。頭は会社のことばかり、「ウチは、ウチは……」話しているそのウチは勤めている会社のことが再々ある。いっぽう家事家計子育ては言わずもがな、近隣との接触も主婦が立ち向かう。これでは朝飯夕飯一緒の家庭生活が不十分になりがちだ。家族での伝承が細くなる。

こうした話を、経営好調の大会社社長二人に「アルバイトを見事にこなした優秀な学生と紹介したのに、君たちが余りにきつくこき使うから、疲れ切っているんじゃない」と申し上げたら「出来る社員にぎっちり仕事してもらって会社が成り立つ。一つの仕事を何人にも分けてやらせていたら、日本の会社はみな潰れちゃうよ。」と笑われました。

なるほどそうかも知れませんが、のんびりゆったりインド式も少し参考に、どうでしょう。

おりしもブータン国王の統治方針「国民幸福度が第一、国民総生産は次の次」が話題になっております。広くの日本人がいささかの共感を抱いたからな

のです。

インドのレンガの荒野は、三・一一大津波を受けた宮城県みやぎけん上、南三陸の光景を思い出させました。

小説家・実業家菊池寛は関東大震災の焼け跡で、近代日本人の努力は無い帰したかと茫然立ち尽したそうです。日本文学研究家ドナルド・キーン氏は占領軍人として、米軍大空襲の焼野原を実見、これが壊滅というものかと思った。新聞に記してある。

菊池所感キーン所感は年月かけてほぼ解決しました。今回の天災人災からの回復は、もつと長い時間と辛抱を要しそうです。

経済的物理的立ち直りの途次、原子力産業を改良発展させるか方向転換するか、短見を避けて充分考える要ありますが、まず放射能汚染を上手に解決する、解決に向かつていかなければ日本と日本人の力と信用がどんどん失われていくでしょう。それは困る。子孫が困る。

国の一部が故障すると国全体が故障するとわかった今、みんなで気持ち良くどのようにつながりあって生きていくのかを考えたい。望みをかけて新年の御祈禱をしたいと思います。

合点掌

中野区立第十中学校三年生と幼稚園児の交流

成願寺付属 中野たから幼稚園園長 佐々木 雅子

中野坂上交差点の中野たから幼稚園から見ても向かいに中野区立第十中学校があります。ここ数年、冬になると中学三年生全員が幼稚園を訪れてくれます。

家庭科の授業単元でねらいを簡単に記すと、

- ・ 幼児の理解
- ・ 触れ合いを通して『いたわりの気持ちを抱く』
- ・ 幼児との活動から自らの幼児期を振り返り生命の尊さに気付き家族への感謝の気持ちを抱く
- と掲げ、事前授業で乳幼児の事を学んで、また配属クラスごとに学校図書館の司書の方のご協力のもと学齢（三歳児～五歳児）にあった紙芝居を選びグループごとに練習してからいらつしやるのです。

幼稚園到着後、生徒さんは園長から「幼稚園とは：学校である」「幼児の仕事は遊び。遊びには学びが沢山あり実体験する学びが大切」「人と共に生きるために意図的に育ててゆく人との関わり方」幼稚園で行なう教育の組み立て方等を聞きます。

・教育目標・年間計画・学期ごとの目標・月を基本とした計画・週や各日毎のプランと子どもの興味関

心を大切にしたい柔軟性を持ったプランの考え方、そして反省会を行ない次のプランだてをする等についてもお知らせしました。

年齢が小さい子どもですが幼稚園ではその年齢なりの誇りを大切にしている事に耳を傾けた後、生徒さんは幼稚園の全クラスにわかれて向かいました。

年少では音楽がかかりダンスの発表をしている所でお客様になったり、机の下にかくれんぼをしたり。年中ではままごとで園児はキッチンに立ち、中学生は膝立ちで高さもびったり、人間スゴロクではサイコロの出た目を見て数えてくれました。

年長ではバナナ氷鬼、ハンターごっこ等をして一緒に遊んでくれました。

クラス全体で集まり中学生の自己紹介やインタビュ大会です。
『好きな食べ物は何ですか？』『お肉が好き、沢山食べられるよ。』『えーっ！』と幼児からは驚きの声です。

中学生は持参の紙芝居を場面ごとで交代したり登場人物で分担



したりグループごとに工夫をこらして読んでくれました。さつきまではワイワイとにぎやかだった幼児がしーんとして紙芝居に食い入るように見ています。一時間が過ぎお別れの時間になるとあちこちから「バイバイ」その後「かわいいー」という中学生の声が聞こえてきました。中学三年生が一クラスずつで次の週にも同じ様にお見えになり遊んでいただきます。

この二回の幼稚園での実習体験の間に今年は年長組が中学校にお招きいただきました。園児もお出かけなので制服を着て園庭でお待ちして、中学生の方々も制服でお迎えに来て下さり、ご挨拶のあとペアになり中学へ向かいました。幼児と手を繋いで声が聞きとれるように背中を丸めて話をしてくれる様子は小さい子どもへの思いやりを感じる情景でした。中野坂上の横断歩道を二回渡るだけですが幼児が危険のない側に行くように配慮して繋ぐ手をかえてくれるのも素敵な中学生を感じる様子でした。

中学校に着くと園長は校長先生にご挨拶に伺い、技術家庭科の授業の持つ大切さを伺いこの交流の何年かの経過をお話しました。

その間に園児は生徒さんとのペアで広い校内を手を繋いで回り、教室の中で大きな机と椅子にビックリし座らせていただいたそうです。家庭科ご担当の若松先生が「小学校に行くからね」、起立・礼」と小学生気分を味あわせて下さって何カ月か後に行く小学校に思いを馳せワクワクしたお子さんも多かった事でしょう。

四階建て校舎の屋上からは遠くスカイツリーまでが近くのマンションの上に見えました。「どこどこ？」幼児の声に長身のお兄さんがすつと抱きあげて見せてくださったり、優しいお姉さんと自分が見たことがある建物を指さして話したりする姿がありました。教室に戻り中学生の皆さんが幼児の為に手作りのパズルをさせていただいたり、手作り絵本を読み



聞かせていただきました。パズルはダンボールの廃材利用とお聞きしていましたが、いいえとても丈夫

できれいに作られていました。また幼児でも難しくないようにヒントでキリンの角や熊のしっぽが枠に残っているなど優しい工夫が感じられました。

ここで最初のクラスのお兄さんお姉さんとはお別れです。次のクラスのお兄さんお姉さんはジャージで現れ新しいペアを組み一緒に体育館に移動です。体育館のステージの高さが幼児の背の高さと同じ位ですから圧倒されますね。ステージに駆け寄り背比べをする人もいました。

広い体育館を二つに分け二面のコートでドッジボールです。幼児が取れそうな球を投げたり、中学生がとった球をそっと幼児に回す等の配慮をしてくださる様子が見られ嬉しく思いました。

その後広ーい（本当に広いです）校庭に移り大きなサッカーゴールめがけ走って入って行く様子はまるで自分がサッカーボールになっているようでした。校庭の端にある中学生用の低鉄棒（十分高いです）や高鉄棒につかまらせてもらおうと大喜びでした。帰りの幼稚園園舎の窓下まで送っていただき、さようならの後、中学生の方々は四限目の体育に間に合うようダッシュで戻って行かれました。お兄さんお姉さん楽しい体験をさせていただき、ありがとうございます。

いました。

幼児教育にあたる幼稚園として近隣の小、中学校との交流は、地域で育つ子ども達の成長を見守る機会となりたいへん嬉しく思います。また中学生の皆さんが幼児との触れ合いを通して優しい気持ちをたくさん自覚して下さる……こういったことも、ひいては地域の明るさや暮らしやすさにつながると考えております。

第十中学校の素晴らしい所は、事前事後のご指導がゆきとどいているところです。家庭科の先生が事前の打ち合わせも当日の生徒さんの管理や指導も、きちんとして下さるので安心して交流することができます。写真も記録の為にお互いに撮りますが、相手校の子どもの顔はホームページ等一般の方の目に触れる所には出さない約束もお互いの信頼で守っています。昨年も後日お礼状や学んだ事のレポートなどをお届け下さいました。

今年は中学生の方からすでに園児と教員宛てのお礼状を頂戴し、氏名は伏せて園内展示致しました。幼稚園の保護者の方に中学生との交流の良さを知っていただくことが出来ました。

慈しみの心を育むのは、やはり体験に優るものはありませんね。交流を通して幼児は中学生に憧れ、すごいなと尊敬の気持ちを持ったようです。

幼稚園の中では一番大きいクラスとして何でも頑張る年長組の子ども達がこの時ばかりはお膝にのせてもらって甘えとても嬉しそうにしていたり、そういう機会もとても大切だと感じます。家族や幼稚園の先生以外でも信頼して交流できる人がいると実感できた事でしょう。

不審者対策の防犯訓練を必要とする世の中になってきました。(今年中野警察の方から『中野たから幼稚園は管内の防犯訓練では一、二の出来の良さです』とおほめの言葉をいただきました。が来年もパターンを変えて教職員必死で取り組みます。)ガードすべきところはしっかりと、しかし基本は人への信頼感を育みたいものです。

中学生の方々も「今度見たら声かけてね」と園児たちに言葉をかけてくれました。今の園児からすると地域の大先輩にあたります。

これからどうぞよろしくお願い致します。

*桃園小学校・塔山小学校との交流の年もあります。こういった交流をさせていただける幸せに感謝致しております。 倉草

株式会社 w a j a 坐禅研修会感想文紹介

昨年九月十七日、岡本道雄先生を講師に迎え、海外ファッション通販サイトの運営を手がける(株) w a j a の坐禅研修会が修行されました。

以下に感想文を紹介します。

広報部マネージャー 久保田晶子

今回初めて坐禅と写経を体験させていただきました。廊下の歩き方や部屋の入り方、坐り方、向きの変え方など、一つ一つの動作に深い意味があることを知り、程よい緊張感の中で普段の私の所作を顧みるきっかけとなりました。

当日はまだ残暑が厳しい暑い一日でしたが、

坐禅を組み腰を落ち着けると、わずかな風が心地よく感じられたり、畳のにおいが心を落ち着かせてくれたり、自分の心が鎮まって感覚が研ぎ澄まされる気持ちになりました。

息を吸うこと・吐くことのバランスや、一メートル先に視線



を落とすこと、背筋を伸ばし姿勢を正し続けることが、こんなに難しいのかと思いつたのも初めてです。よく坐禅では「心を無にする」と聞きますが、実際にはそういったことに気を取られ無にすることはできません。でも、呼吸や姿勢などの純粹な動作をここまで深く見つめることができ、とても集中した濃い時間を過ごせたと思います。

写経も精神統一することができた非常に貴重な時間でした。筆を持つのはもう十何年ぶりのことで、うまく書けるかばかりが気がかりでしたが、「うまく書くことが重要なのではない」という岡本道雄先生のお言葉に、集中力を高め真剣に取り組むことができました。少しでも他のことを考えたり、目線がそれると、少しのハネやほらにも思うように筆が進



みません。ひと筆ひと筆にそのときの心が現れるのだなあと実感しました。

最後には、食事の心得で

ある「五観の偈」を教えていただきながらお菓子とお茶をいただきました。「食の乱れは心の乱れ」というお言葉がとても印象に残っています。毎日三度必ずいただく食事が、当たり前のこととおろそかになってしまっていたことを反省します。あらためて感謝し、毎日の健康を支える食を大切にしていきたいと思っています。

今回は会社のイベントとして一緒に働く仲間と体験させていただきました。非日常の試みを通し、新しい経験や視野を広げることができました。社内では今でも、坐禅のときの感想やそこで学んだことが話題にあがります。とても良い経験とお話をお伺いできたことに、あらためて感謝しております。ありがとうございました。

(一)

平成二十三年秋の坂東三十三観音札所巡拝の報告

今回から全四回の予定で坂東三十三観音札所巡りがはじまります。成願寺の行事としては実に二十有余年ぶりのことです。坂東札所の成立は鎌倉時代初期と伝えられています。成願寺の開創より二百年ほど前のことで、鎌倉幕府將軍家の熱心な観音信仰、

西国三十三観音霊場への憧れからそれに倣って制定され、爾来現在に至るまで多くの人々の篤い信仰を集めてきました。以下参拝順に紹介します。

朝七時、観音堂にてご祈禱後、ゆったりした大型バスで成願寺を出発。首都高を神奈川方面へ向かいます。最初に訪れたのは行基開創と伝えられる逗子市の岩殿寺です。長い階段を上ると、岩窟が殿堂のようで寺号になったというように、岩山に抱かれた御堂が姿を現し、源頼朝の深い帰依を受けた御本尊十一面観音様に巡拝はじめのお経をあげさせていただきました。振り返ると逗子市街と相模湾が眼下に広がって、素晴らしい眺望でしばしの一服。

次の鎌倉市安養院は北条政子が夫頼朝の冥福を祈るために創建した長楽寺が前身といえます。山門頭



第二番 岩殿寺（岩殿観音）



第三番 安養院（田代観音）



第一番 杉本寺（杉本観音）



第四番 長谷寺（長谷観音）

のすすぎが秋の情緒たつぷり。境内には天然記念物で開山上人のお手植えと伝わる榎の原木が幹をいっぱいに広げています。本尊の阿弥陀如来、千手観音様にお経を上げ、杉本寺へ。

一番札所の杉本寺は天平六年（七三四）光明皇后の御願を受けた行基が一刀三礼しながら彫った十一面観音様を本尊とお祀りする古刹。山門をくぐると苔むした石段が歴史を物語りますが、保護のため閉鎖中で少し緩やかな階段を進みます。茅葺き高床式の観音堂とはためく幡が古刹の風情を伝え、明治期の俳人で住職であった尾崎迷堂にあやかった俳句の会の参拝者と一緒にお詣りをさせていただきました。

初日最後の長谷寺の観音様は、大和長谷寺の本尊様と同じ様式で、右手に錫杖、左手に水瓶を持ち岩

座に立つ身の丈九・一八メートルという圧巻の姿。金色もまばゆい御尊像を前に読経して、見所いっぱい境内、近隣のみやげ物屋、少し足を伸ばして大仏

様へとそれぞれに鎌倉の街の散策を楽しみました。

バスは今夜の宿、厚木市の飯山温泉元湯旅館へ。名物・田にしの味噌煮と猪鍋、鄙びた雰囲気湯治場で身も心も温まる一夜を過ごしました。

明くる日は旅館のバスに乗り込んでほど近くの飯山観音長谷寺へ。仁王門をくぐり階段を進むと左右に石灯籠、山を背負った本堂の外陣に上がらせていただき、多数献灯された吊り灯籠の下参拝。こちらの本尊様も十一面観音様で、行基が楠で造ったという御尊像が胎内仏として納められています。本堂前で記念撮影の後、バスを乗り換え座間市の星谷寺へ。星谷寺は昼間でも星を映す「星の井戸」等の七不思議が有名ですが、特筆すべきは梵鐘で国の重要文化財に指定されています。銘文に嘉禄三年とありま



第六番 長谷寺（飯山観音）



第八番 星谷寺（星の谷観音）



第七番 光明寺（金目観音）



第五番 勝福寺（飯泉観音）

すから鎌倉時代中期の作で、通常二つある撞座が一つしかなく、古くから奇鐘として知られてきました。欄間の天女も美しい外陣で、やはり行基作と伝える聖観音様にお経を上げさせていただきました。

金目川のほとり平塚市の光明寺、大きな草鞋が奉納された仁王門をくぐると目の前が柿葺形銅板葺の観音堂でその創建は奈良時代以前に遡ります。本尊の聖観音様は安産守護の靈驗あらたかで、北条政子も源実朝出産の折に安産を祈願したと伝えられています。また三十三応現身立像は観音経で三十三身に変化すると説く観音様のお姿を現した貴重な御尊像。直接拝せず残念ですが、心を込めて参拝しました。

最後に訪れたのは小田原市勝福寺。「かながわの名木百選」の一つで樹齡千年と言われる大銀杏が広い境内にあつて威容を誇っています。三十三年ごとに開扉される御本尊十一面観音様にこのたび最後のお経をあげ、成願寺への帰路につきました。

（了）

山内短信

◎春彼岸中日法要「修証義奉読会」のお知らせ

三月二十日（火）春分の日 午後一時

◎観音詣りのお知らせ（坂東三十三観音埼玉方面巡礼）

日程 四月二十九日（日）昭和の日

行程 成願寺朝七時集合・出発―九番慈光寺―十番正法寺―昼食・東松山市料亭坂本屋―十一番安楽寺―十二番慈恩寺―成願寺夕五時過ぎ帰着予定
会費 一万三千円

◎向台子育地藏大祭の報告

去る十一月二十三日、弥生町一丁目に鎮座する向台子育地藏尊の大祭が執り行なわれました。

この地藏尊は寛政八年（二七九六）、近隣の念仏



講により建立され、以来二百有余年にわたり子どもたちと道行く人々の安全が願われてきました。台座には「右ぞうしき道、左はたがや道」と刻まれて、古くは道しるべとしての役割も果たしていました。大祭当日は弥一向台町会による餅つきや出店もあり、老若男女多数参集して和やかな一日を過ごしました。

◎前田康成原画展のお知らせ

絵本「なかのちようじやとじようがんじ」の作画をご担当いただいた画家の前田康成さんの個展が開催されます。



日本の昔話では、幸せはいつも身近な自然や心の中にあることを教えてくれます。作者が描く龍や河童、観音様など、その登場人物を通して伝わる「昔話の心」をどうぞお楽しみ下さい。（作者より）

【日時】四月二十一日（土）～四月二十九日（日）

朝十時～夕七時（最終日朝十時～夕四時）

【場所】新宿京王プラザホテル・ロビーギャラリー（三階）
（入場無料）

*ホームページ <http://www.nakanojouganji.jp/>